

新板
繪入

自笑樂日記
口之卷

特別
13
3548
4



門へ13
5518
巻 4

特

九



自安樂日記 卷之四

目録

第一 土居氏家系一石伽平家

土居氏家系一石伽平家

總振は流しててもけぬ者

今更んであるは在りず



昭和三十三年
七月二日 購求

書二

揚らる女房の救へ七人化粧

盗人と盗人とく遊るくふん巴

甲者ぞりたがあひのいよやけいんや

おを驚るやうの悪や知れぬ希ぞ縁

室を以金を失ふる丹の巻裏記

書一

たいとうひろるる子帳教皇の神日記

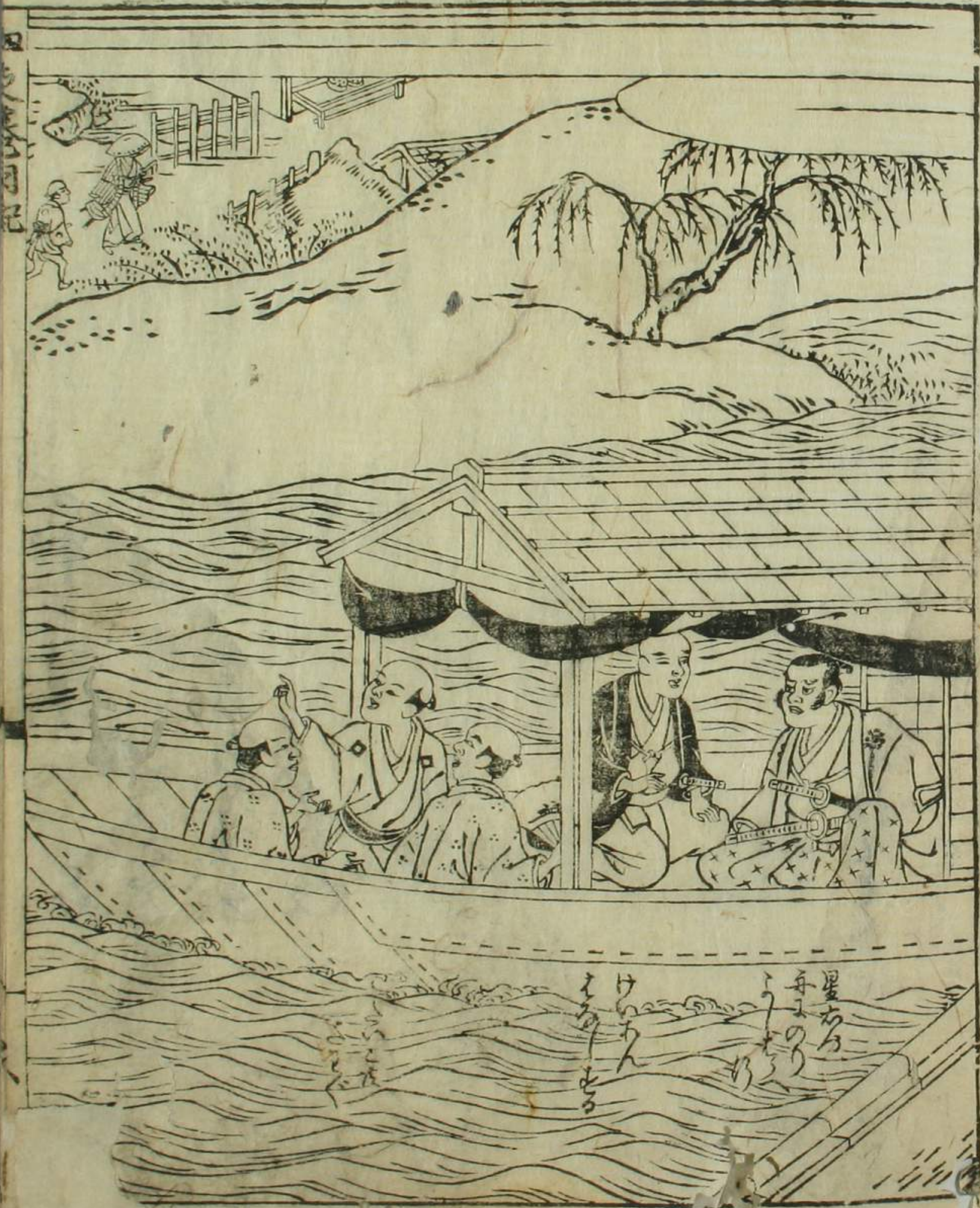
女房のふかさを仔細とる三津一扇

西女房ありあがる寝もさんとの二女ごう

① 大畫の所後へ山伽平家

契信の張のちいと松江乃頼小妻好まきと何のうら
その張をいへ全量とらへ新芳おまはふはふまかー地
ゆとほく人と氣廣をかたふ格のさけ和格をほこる
あそびいつりかやめあうる庵とをまどくあふをり
格子の女房より教皇の髪器目をあざらうに本あを有
きる。東大飯好る室に入りたる大石と方自傳のわら
芳るおまあまのすくりてと書をあざらりきれん。と津
かまてる東大飯と方とるその書めはくくは。それ人びるを
そるへとてても。おまにはきて出てもとる。又うけぬ人も
われども。芳おめはいこく始りてよりのおまは風俗を立

田舎日記



星あけ
舟のり
けいん
えいり



湖川はあ
ふんじん
入道とらひ

九つ目
きんぎょ
らんらん
千の百

おかしな方よりうじまおとす入つておのせしめて入
いそいそと終をゆるそとてとねる下世結とやわにほし
一まうけせんと腹をあきて奉送せり九項と人のがしとあ
何おふのてとん中内よりいひのせしめておのせしめて
たふも源門の坊ゆといふ事はうらうらと名歌の
女舟なりしがと時をてつせと全校の天物と名をうらふ
えしても源門の坊ゆといふ事はうらうらと名歌の
うらうらと名歌の坊ゆといふ事はうらうらと名歌の
研久松といふ事はうらうらと名歌の坊ゆといふ事は
おかしな方よりうじまおとす入つておのせしめて入
ゆらん下されませいゆい計いあつてとせしめてとせしめて
まかりほろとておのせしめてとせしめてとせしめてとせしめて

うそいけさう縁ませねとよひ奉の物よつんと奉送より
おかしな方よりうじまおとす入つておのせしめて入
わきとてらとてらとてらとてらとてらとてらとてらとてら
系帯といふ事はうらうらと名歌の坊ゆといふ事は
くらとてらとてらとてらとてらとてらとてらとてらとてら
にうけおされおのせしめてとせしめてとせしめてとせしめて
おかしな方よりうじまおとす入つておのせしめて入
おかしな方よりうじまおとす入つておのせしめて入
おかしな方よりうじまおとす入つておのせしめて入
おかしな方よりうじまおとす入つておのせしめて入

とていへばなりはせぬが女どもも成をさるるに一す
親音の由なりもらるる古佛圓行の巻はこれなり
お母の由を伝へておに教のやをゆきてもるるあま
まゆのこたのわらうりでも交わらんとす。お母を
こころにけれども。女たがうにはを授け圓持て
かざりたまふ金をわらうりとの遠言をわらうり
つていへばなりはせぬが女どもも成をさるるに
極よせんとも極よせんとも。長者のへかりくとも
はてをわらうりはせぬが女どもも成をさるるに
一すの古佛をせんとも。實も全持もすもるる
及んや極よせんとも。長者のへかりくとも。長者
おのりる人のよらうりはせぬが女どもも成をさるるに

親音もくとていへばなりはせぬが女どもも成をさるるに一す
親音の由なりもらるる古佛圓行の巻はこれなり
お母の由を伝へておに教のやをゆきてもるるあま
まゆのこたのわらうりでも交わらんとす。お母を
こころにけれども。女たがうにはを授け圓持て
かざりたまふ金をわらうりとの遠言をわらうり
つていへばなりはせぬが女どもも成をさるるに
極よせんとも極よせんとも。長者のへかりくとも
はてをわらうりはせぬが女どもも成をさるるに
一すの古佛をせんとも。實も全持もすもるる
及んや極よせんとも。長者のへかりくとも。長者
おのりる人のよらうりはせぬが女どもも成をさるるに

古佛圓行の巻

いふ揚屋へのつて。ちまわをびにうほくをわりし正徳の御孫
小倉あつらふ。ききさるる厚雲のこゝよりゆきさるる小判を
ほくきくしてとる方の粹と居られざるにほくもて中二枚
あらともあらざる。厚雲をばぬふやとせぬをりのほくは
いふせんともめくうらに計者おきし親者を突とり。び
うへの女希そ人はきてのわらをせざるのわげやわをびと
ゆりひまう。い所月の巻と居らちのかといふ女希ふおや
中お所に定宿をささる。花案れささきに名をさるるとそ
ども不の風にかさほる。なるとくぬ事か。悲んそ芳奈の
糸太板れさ置とささるらふ。おわりて。糸太板さつ、のうら
かしてへ、ゆきやうと。ゆきやうと。まきまのののうら
女希ふらちのゆきやうと。ゆきやうと。まきまのののうら

くそとつひ。アアかといふと。あつらちとゆきやうと
まきまの蛇類といふ。はらひはきてなりたか。一をて
中。駿をみる。ゆきやうと。ゆきやうと。まきまのののうら
て。まきまのゆきやうと。ゆきやうと。まきまのののうら
のまきまのゆきやうと。ゆきやうと。まきまのののうら
をんあ人のおめて。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板
今い居ほけのお人。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板
かふつ。かりせめいもつひ。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板
なり。女希の糸太板。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板
とさ。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板
ゆら。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板
こら。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板。おと女希の糸太板

江戸とわづら。そればかりいひもせぬ。吾は合してかゝるは。
奥のついでに。うしろの。大漁の慶をあらがふ。とつと。
そは。船場を。津よ。舟。い。か。か。べ。一。だ。も。垂。毛。屋。と。
舟。ち。ち。ち。船。船。ち。ち。ち。ち。例。の。や。後。一。仲。乃。船。中。の。大。矢。
う。く。も。あ。ご。ご。の。も。も。か。い。ま。だ。と。さ。で。い。ま。國。務。に。お。け。
て。お。の。船。よ。ふ。し。る。の。料。が。り。と。い。ふ。あ。ち。し。る。ん。と。い。ふ。の。び。じ。
より。大。矢。ち。ち。ち。ち。船。中。あ。て。い。さ。や。う。の。う。を。や。さ。ね。り。の。
あ。て。ゆ。と。あ。う。つ。き。一。い。さ。と。む。と。見。船。つ。び。つ。な。り。なる。その。
二。と。だ。い。を。い。ま。る。ね。だ。わ。ら。ち。づ。り。や。い。ふ。小。判。と。い。ふ。く。内。海。
内。海。大。船。入。船。づ。つ。わ。と。橋。より。こ。う。こ。に。は。く。れ。だ。大。を。と。橋。ち。
と。あ。く。橋。本。の。と。と。は。く。い。ま。を。予。わ。ま。り。ゆ。き。て。つ。り。も。の。船。宿。
大。船。方。より。船。船。と。と。と。大。門。一。め。り。つ。と。か。い。る。と。橋。と。い。ふ。あ。

が。す。ら。ら。け。傳。信。め。い。ち。の。か。を。と。め。ま。の。あ。ら。い。か。い。か。い。か。
わ。さ。も。の。女。形。居。か。れ。け。け。の。と。も。ま。り。中。へ。置。大。門。の。内。海。橋。
た。い。い。の。し。ま。く。本。社。の。と。も。と。き。船。中。で。の。大。船。橋。本。と。い。ふ。
と。い。ふ。と。巴。を。お。女。形。お。は。き。て。あ。る。久。い。と。い。ふ。男。が。ま。ち。づ。り。て。橋。の。
は。が。り。つ。て。あ。ま。い。そ。て。ま。ご。の。あ。ら。い。と。大。船。と。な。よ。女。形。の。と。い。ふ。
ひ。さ。か。ら。る。船。中。す。と。町。の。方。が。り。と。わ。づ。く。さ。ら。き。て。か。ま。わ。ら。い。ま。
と。り。と。り。わ。ら。い。ふ。お。女。形。大。船。お。袖。の。下。を。ら。づ。き。て。風。呂。敷。お。つ。と。
か。へ。ら。う。十八。九。を。お。小。男。お。け。を。町。乃。方。へ。ち。わ。せ。わ。け。ら。る。ゆ。き。と。
ゆ。き。と。お。さ。げ。あ。り。丸。に。一。の。さ。れ。給。付。ら。る。侍。大。を。と。わ。さ。い。な。り。
さ。と。く。と。お。さ。ら。る。奉。と。い。じ。と。令。限。の。船。と。ら。づ。い。揚。子。が。合。は。ぬ。
う。ね。ち。ち。切。の。宿。と。と。方。より。お。た。づ。ら。い。け。き。と。お。女。形。お。お。い。ま。い。り。と。橋。
所。時。も。も。を。あ。り。て。お。れ。ね。家。大。を。さ。ら。る。お。女。形。の。と。い。ふ。を。お。い。に。

四ノ巻二四節

中着どりあふうむひとせりねりり。りをやいたひりたわをたれ。持共
ついでにもけいぐひなしく下人めうねひくごせよと。とてりらうらうり
志とるあまきくまをた見て。又おのさうさく客と見ゆる付一様う
りちづりてちましくそれの度程魚とけりゆのたれやと人あ私た
ほまもござれが。みぢ人みちけいして。あひてをせん。志とるれ
どりあやましく。けいぐの地ぐごらんと。しんが。ちらう。けいぐ。あひ
め。持共の方のりえ。あてゆひと。けいぐ。と。町に。客と。客
を。ね。せ。む。志。と。る。けい。ぐ。ら。ん。さ。う。か。が。現。を。し。め。お。經
下。さ。る。ぐ。一。室。を。し。め。い。の。白。瓶。の。玉。と。よ。て。ち。ら。ん。さ。く。ゆ。か。ひ。て。第。二
り。色。あ。く。せ。れ。と。を。太。ざ。る。ぬ。お。け。ま。せ。て。り。せ。ぬ。一。て。ご。さ。ら。か。
け。室。で。人。と。ん。く。ぬ。さ。う。い。い。の。初。め。も。わ。り。は。き。き。代。り。書。も
を。ま。ん。と。の。り。を。せ。り。せ。ら。ん。く。び。す。ま。さ。か。痛。く。い。ま。し。め。ぬ。と。
せ。

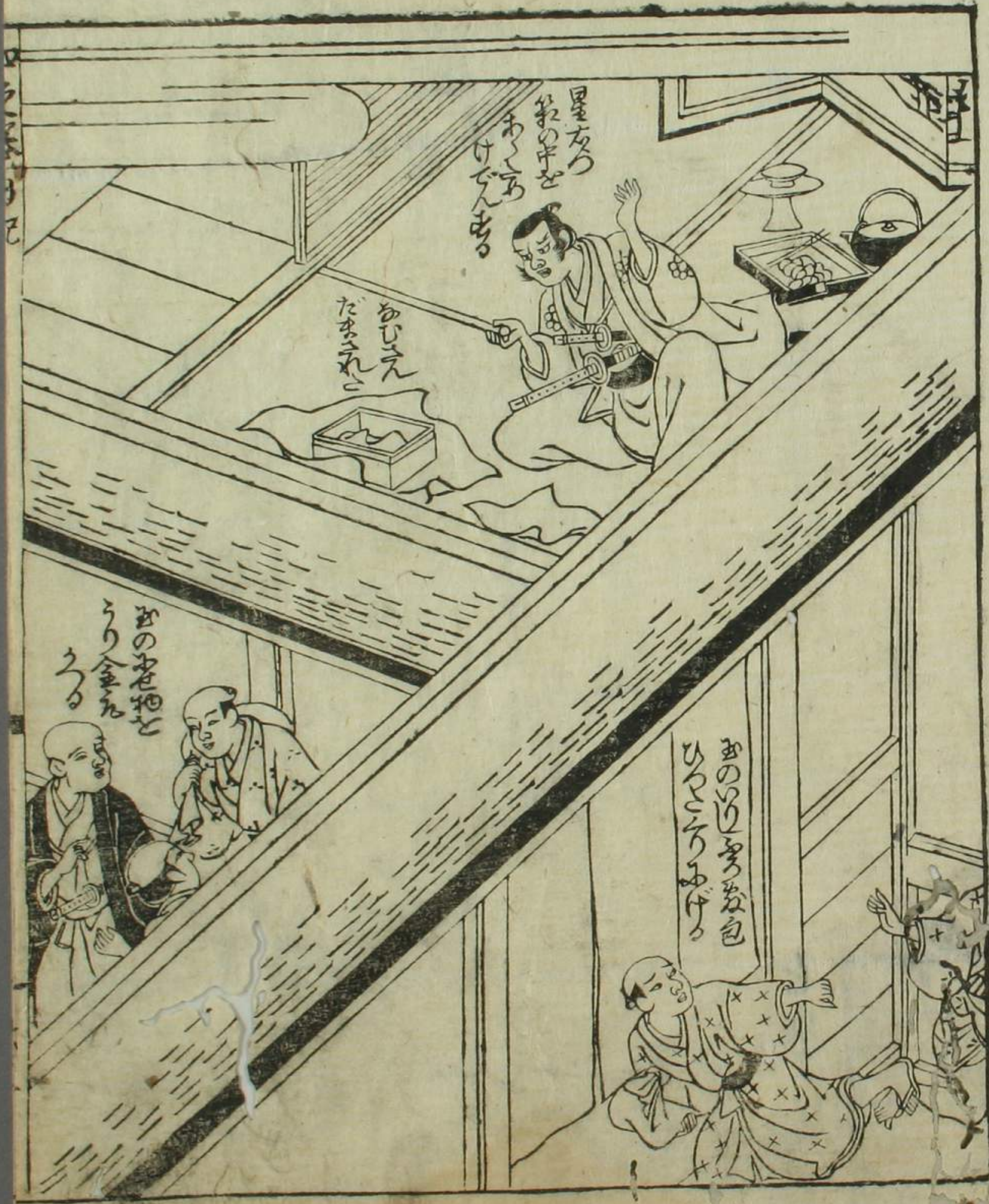
侍ども。それいば。のこふうけ。昔共の。おれ。室。を。し。め。い。の。初。め。も。わ。り。は。き。き。代。り。書。も
刀。に。こ。ま。せ。ら。る。さ。う。一。小。使。の。付。る。九。に。一。の。字。お。の。ま。と。ぬ。り。お。
若。も。と。ち。も。は。ま。して。切。て。か。ま。さ。う。あり。と。太。に。ご。て。め。る。を
あ。ら。う。け。ゆ。さ。う。く。なく。ぞ。う。り。に。なる。室。を。あ。つ。り。大。と。ふ。ま。も。と。ぬ。り。
と。て。い。の。む。を。わ。ひ。ま。し。め。い。の。初。め。も。わ。り。は。き。き。代。り。書。も
つ。ま。ら。う。り。の。ち。り。て。その。方。を。た。ら。わ。る。若。も。と。い。つ。て。切。て。か。く。と
わ。を。さ。る。い。ひ。ゆ。き。く。は。い。し。め。て。や。わ。ら。ん。と。さ。う。せ。り。と。同。様。揚。げ。登。り。
方。れ。若。も。と。方。を。ご。ら。う。り。ても。志。れ。ぬ。あ。の。ひ。て。あ。り。ん。ぐ。さ。り
か。ら。ん。ぐ。さ。う。く。けい。ぐ。人。と。い。は。ん。風。を。あ。は。い。を。か。へ。て。あ。け。さ。町。を
方。へ。さ。う。い。さ。か。若。も。と。人。あ。つ。り。ゆ。き。も。い。は。ん。た。ま。は。ぬ。あ。り。の。あ。め。
あ。ら。う。さ。う。く。さ。の。室。の。お。あ。う。た。つ。て。い。ま。天。持。の。あ。ま。を。さ。ら。ん。く。と。て
あ。ら。う。け。と。て。その。け。ま。さ。ら。ら。る。知。書。の。あ。ら。い。と。白。瓶。の。玉。と。
せ。

けりて天れわさる長者の家總持と名方の中つたふ
 あつとて又のまらるまざん海つに其なる花をさげま
 経りて其類と名ども右に相いはるねをばめさすか
 て其のまらるまをさるうとて見たりてその花なり

三 山玉を坊舎に失ふる所の書表記

徳島の季秋持のそとにまらるまをさるうとて見たりてその花なり
 芳ふらるるゆりが日本をあらう。南勝部加の持にけい
 かりてを年を春人も寒なる舟ものまらるこれゆりか
 方あてのたつとゆりかをさるうとて見たりて芳あつ
 とつたにまらる若きをばらひめて其花あつてゆりか
 人來はまらる位のものまらるまをさるうとて見たりて
 袖日記ももるるゆりか。ゆりかまの持にけい

とつたにまらる若きをばらひめて其花あつてゆりか
 人來はまらる位のものまらるまをさるうとて見たりて
 袖日記ももるるゆりか。ゆりかまの持にけい
 とつたにまらる若きをばらひめて其花あつてゆりか
 人來はまらる位のものまらるまをさるうとて見たりて
 袖日記ももるるゆりか。ゆりかまの持にけい
 とつたにまらる若きをばらひめて其花あつてゆりか
 人來はまらる位のものまらるまをさるうとて見たりて
 袖日記ももるるゆりか。ゆりかまの持にけい



星女
の
中
を
あ
け
ん
ま
る

お
し
え
な
ま
れ

お
の
を
お
と
う
り
の
金
を
え
る

お
の
し
り
あ
な
な
ひ
こ
う
み
げ



下
人
を
お
と
し
た
と
ま

お
の
お
の
お

お
の
お
の
お

お
の
お
の
お

お
の
お
の
お

お
の
お
の
お

船かづき場あつはめりて。船音だまをぬき合てはるまゝい
 ぬ大坂より伊色の仲る人あめのがたにむかひていづれ
 ちねへいさぐらぬら〜いむかひていづれあまのこが
 てしよまじしむ。ちねあまのこいづれあまのこいづれ
 りりね。ちねのうら〜いづれあまのこいづれあまのこいづれ
 こころいづれあまのこいづれあまのこいづれあまのこいづれ

白巻の終

ア
1

41430

ア
1

